

生駒送信所の非常用発電機燃料タンクを增強 本社タンク増設に続き、大災害に備える！

読売テレビ社屋の非常用発電機・燃料タンクは、大災害時に放送機能を継続する目的で、昨年末、2万リットルから8万リットル(電力供給想定80時間)に増設されました。

一方、本社からの電波を近畿一円に送出する生駒送信所(奈良県生駒市)にも非常用発電機があり、電力を3日程度供給できる容量の燃料タンクを備えていました。しかし、東日本大震災を受け、生駒山上にある送信所への迅速な燃料補給に不安があることを考慮して、電力をより長時間供給できるように、タンクを大容量化すべきと判断しました。

そこでこの冬、本社燃料タンク増設工事に続いて、送信所燃料タンクの增強工事に着手。今年1月に新しいタンクが搬入され、これまでの2290リットルから4390リットルへと容量が倍増、1週間程度の電力供給が可能となりました。

生駒山上には通称・生駒岩と呼ばれる非常に硬い岩盤があり、掘削工事は難航が予想されましたが、3月9日に無事竣工。これで約14キロ離れた読売テレビ本社と生駒送信所が共に燃料タンクを增強したことになり、大災害時の停電に備えた非常用電源の確保が完了しました。

読売テレビでは引き続き大災害時の電源対策に取り組むと同時に、本社屋の浸水対策など防災関連の工事を進めていく予定です。